

《中学生部門 優秀賞》

「勇気を出して」

有田市立文成中学校 2年

脇わき 詩央里しあかり さん



「より良い社会」とはどのような社会か。私が真っ先に思い浮かんだのは、「笑顔があふれる社会」だ。しかし、具体的にどのようなことをすればそれは実現されるのか。今までの私には分からなかったが、今の私なら少し分かる気がする。

この間、職場体験学習があった。私が体験させてもらったのは、病院での仕事だ。私は、これからいろんな仕事ができることに心をおどらせていた。しかし、最初の仕事はまさかの玄関であいさつすること。正直、あいさつなんて今さらだし、しかもそれを一時間も。すでに私の気分は下がり気味だった。いつもの制服ではなく病院のユニホームを着ているはずかしさもあってか、最初の私の声は本当に小さく、患者さんが聞こえるか聞こえないかぐらいだったと思う。あいさつでもそんななのに、もう一つ、車いすで車からの移動が大変そうな患者さんを手伝うという仕事だ。手伝ったほうがいいのかなと思っても、もし断られたら、もし逆にじやまになってしまったらという不安のほうが大きくなり、結局手伝いにいけなかった。そんなのがしばらく続いたころ、担当の看護部長さんがこんなことを話してくれた。

「たかがあいさつって思うかもしれないけど、あいさつを笑顔で大きな声でもらうだけで、患者さんの気持ちも明るくなって、体調がよくなることもあるんだよ。だから、あいさつってとても大切だと思うんだ。」

正直、そんなこと考えたこともなかった。半信半疑ではあったが、私はもう一度、患者さんに笑顔で大きな声であいさつしてみた。すると、

「おはようございます。」

と返してくれた。その前までも返してくれていたが、それとは全く違っ

て、笑顔で返してくれた。ああ、これが心の底からのあいさつなんだな
と思った。相手がうれしいというのはもちろんだが、何よりもあいさつ
をする自分も気分が良かった。それから少したって、看護部長さんが玄
関に歩いていった。どうしたんだろうと思い、見てみると、車いすの患
者さんが車から降りるのを手伝ってあげていた。それも全てを手伝うわ
けではなく、難しそうなところだけを少し。そして患者さんは笑顔にな
った。でもそれは、楽になったことに対してよりも、手伝ってくれたこ
とに対してのうれしさのように見えた。そこで私は気付いた。手伝うと
いうのは、楽にしてあげることよりも「手伝う」ということそのものに
意味があるのだと。その日は結局行動することはできなかったけど、も
し普段でそういうふうな場面があれば行動に移そうと思った。

あいさつをする。困っている人がいたら助ける。どちらも言葉にする
だけなら簡単だ。しかし、それを実際に行動に移せる人は少ないと思
う。たった少しの勇気があれば、そんなに難しいことではない。一人一
人が勇気を出して、その二つを行動に移していくこと。それこそが、「笑
顔があふれる社会」を実現させるための一番の近道ではないかと私は思
う。